

案件概要書

2013年10月29日
国際協力機構 東南アジア・大洋州部
東南アジア第六・大洋州課

1. 案件名 (国名)

国名：パプアニューギニア

案件名：ニューブリテン国道橋梁架け替え計画 (The Project for Reconstruction of Bridges on New Britain Highway)

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における道路セクターの開発実績 (現状) と課題

パプアニューギニア (以下「PNG」) は、日本の1.25倍の国土面積を有し、ニュージーランドよりも多い約716万人の人口を擁する大洋州の大国である。しかしながら、国内の道路網 (総延長 (国道及びその他地方道路も含む) : 約19,800km) は、未開通区間が多く、主要都市間を結ぶ道路が分断状態にあり、迂回路や代替路も少ないなど未発達な状態である。そのため、雨季の豪雨等に起因する地すべりや斜面崩壊、河川の氾濫等に伴い、道路や橋梁が閉鎖された際には、地域間の人々の移動や物資の輸送が不可能となるなど、経済や住民の生活等に深刻な影響を与えている。このような状況下、西ニューブリテン州のキンベと東ニューブリテン州のラバウルをつなぐ予定のニューブリテン国道は、229kmの幹線道路として計画され、現在西ニューブリテン州のキンベからビアラの先のウラモナまで開通している。豪州国際農業研究センターの報告書によると、西ニューブリテン州では、世界第6位の生産量 (2013年米国農業省予測値) を誇るPNGのパーム油の7割が生産されており、10,000以上の小規模農家がニューブリテン国道などを利用して、キンベとビアラを拠点とする民間企業のパーム油加工場に自家栽培したパーム油を持ち込むことで生計を立てている。しかしながら、ニューブリテン国道上に存在する橋梁のうち、林業活動の促進と、地域住民のキンベやビアラへのアクセス向上のため、1980年代前半に本邦企業とPNG政府による現地合弁会社が出資し、本邦企業により建設されたアウム橋とカピウラ橋は、車両衝突などによる部材の破損や、設計耐荷重が現状では十分ではなくなっている。このため、アウム橋は通行止め、カピウラ橋は通行車両の重量を制限している状況であり、幹線道路であるニューブリテン国道のパーム油輸送も含めて物流を妨げているほか、アウム橋の代替橋も丸太で組まれた脆弱な橋となっていることから、交通安全の観点からも大きな懸案となっている。

(2) 当該国における道路セクターの開発政策と本事業の位置づけ及び必要性

PNG政府が策定した「中期開発計画2011年-2015年」では、地方住民の市場と公共サービスへのアクセス改善を目指すため、既存幹線道路を良好な状態に保つことが重要とされているほか、「開発戦略計画2010-2030」では、ニューブリテン国道を含む16の優先道路を中心に、2030年までに抜本的な改良を行うとしている。

(3) 道路セクターに対する我が国の援助方針

2012年5月に日本政府が開催した第6回太平洋・島サミットにおいては、持続可能な開発と人間の安全保障を確実にするために、信頼性の高い交通網を整備していくことの重要性が指摘された。また、対PNG国別援助方針における重点分野としても「経済成長基盤の強化」が定められ、運輸交通インフラも含む、経済インフラの整備・維持管理に重点を置くことされており、本事業はこれら方針に合致する。なお当国の道路セクターに対しては、これまで道路建設機材の整備や橋梁の建設等にかかる6件の無償資金協力と、既存道路の改修と道路の新設を行う3件の有償資金協力を実施している。

(4) 他の援助機関の対応

アジア開発銀行 (ADB) は、ニューブリテン国道を含む5つの幹線道路を対象に、「改良された地方アクセスのための橋梁架け替えプロジェクト」を実施し、ニューブリテン国道

では13の橋梁の架け替えを実施する予定である。しかしながら、ADBのプロジェクトでは、主として簡易鋼橋（ベイリー橋）を対象としているため、より架け替えの技術的難易度が高いアウム橋とカピウラ橋は対象に含まれなかった。その他、世界銀行、豪州、ADB等による、既存道路の維持管理を目的としたプロジェクトが数件実施されている。

3. 事業概要

(1) 事業の目的

プロジェクトは、ニューブリテン国道において、アウム橋及びカピウラ橋の架け替えを行うことにより、地方住民の市場と公共サービスへのアクセスと物流の改善を図り、もってPNGの経済発展に資することを目的とする。具体的には、移動時間の短縮、通行車両の増加等を目指す。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名

PNG 西ニューブリテン州

(3) 事業概要

土木工事（アウム橋（橋長50m）及びカピウラ橋（橋長116m）の架け替え）

(4) 事業実施体制

事業実施機関： 公共事業省

(5) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

① カテゴリ分類： B

② カテゴリ分類の根拠： 本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010年4月公布）に掲げる道路セクターのうち大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断され、かつ同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しないため。

2) 貧困削減促進等： 特になし。

(6) 他スキーム、他ドナー、他案件等との連携： 本事業の実施体制及び事後のフォローアップ体制の構築については、同じニューブリテン国道を対象としてADBが実施する「改良された地方アクセスのための橋梁架け替えプロジェクト」とのデータ共有や、公共事業省職員に対する研修の合同実施など連携を検討する。

(7) その他特記事項： PNG政府及び豪州を中心とする開発パートナーは、先にPNGで実施された無償資金協力「ブーゲンビル海岸幹線道路橋梁整備計画」により建設された構造物の質を高く評価している。また、オニール首相が2013年3月に来日した際にも、同案件への評価について言及したうえで、PNGにおける橋梁建設に対する日本からの更なる支援を望む発言を行っている。

4. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

(1) 類似案件の評価結果

パプアニューギニアで実施された「ハイランド国道ウミ橋架け替え計画」の評価等では、過積載車両が多いために床版にひび割れが発生し、実施機関が舗装工事を追加的に実施したとの報告がある。

(2) 本事業への教訓

本事業の対象地域においても、幹線道路であることからパーム油等多くの重量物を積載した車両の通行が予測される。また熱帯域であるため、高温・多雨による影響も予測される。そのため、本事業においては、架け替えを行う橋梁に関する設計・仕様において、通行車両の実態や現地気候を十分に考慮する。

以上

〔別添資料〕 地図

プロジェクトサイト位置図

